

厚生文教常任委員会会議録

- 1 日 時 令和5年7月21日(金)
11時14分開会 11時45分閉会
- 2 会議場所 役場3階 第1委員会室
- 3 出席議員 委員長：川上 均 副委員長：橋本晃明
委 員：山本奈央、桜井崇裕、佐藤幸一、西山輝和
議 長：山下清美
- 4 事務局 事務局長：大尾 智、事務局次長：川口二郎
- 5 議 件
(1) 所管事務調査の内容について
(2) その他
- 6 会議録 別紙のとおり

(1) 所管事務調査の内容について

【開会 11 : 14】

委員長 (川上 均) : 只今より厚生文教常任委員会を開催する。所管事務調査の内容についてであるが、清水高校の現状と振興策について、1番目として、学校教育課の調査、2番目として、清水高校の調査、3番目として、中学校から見た清水高校の現状と課題について伺いたい。最後に、これら関連して、道内の総合学科の視察調査、現在道内には13校あるけれども、その中から選んで見るということと、総合学科に限らず高校の振興策を取り組んでいるところを視察、特に近隣であれば鹿追町とか足寄町、皆さんと協議させていただきながら進めていきたいと思っている。今後のタイムスケジュールだが、これらについて調査を進めていくのであれば、9月の定例会には期間が少ないので、継続という形で早くても12月議会の定例会に報告できるような形にできればと思っている。これについて皆さんに具体的なご意見などあったら出していただいて、進めていきたいと思っている。率直に皆さんのほうからご意見伺いたいと思っているがいかがか。その他に皆さんの方からこういう調査もしてみたいというものがあれば、合わせて出していただければと思う。

橋本委員 : 前から言われているところから言えば、所管の範囲を超えているのではないかということには必ず出てくると思う。清水高校振興会とコミュニケーションをとっていくことは可能だと思うので、振興会であれば高校の先生も入っていると思うので、9月で一回閉めるというのはどうか。12月っていうのもちょっと厳しいのかな。ただ、清水町として、清水高校がなくなってもいいのかというような極端な議論というわけにはいかないもので、現状と振興をしていくためには、期限のある中でとなれば、教育委員会とか高校振興会とかと進めていくというのを9月議会までの間に実施するというのが現実的なのかなと思っています。

委員長 : いま橋本委員から所管の範囲を超えていないかという事と、振興会との懇談がまず必要ではないかという意見が出されたが、他にはないか。

桜井委員 : 私も振興会、そこを抜きにということは考えられないと思う。

委員長 : 暫時休憩する。

【休憩 : 11 : 22】

【再開 : 11 : 24】

委員長 : 休憩前に引き続き会議を開く。

桜井委員 : 所管の範囲を越えないのであれば可能なものについては実施してもいいかなと思うが、橋本委員が言われたように、継続というところに関しては、まずどういったことをやるかと、それから継続するというので、当初から継続というのはどうかという思いもないわけではない。

委員長 : 桜井委員からは、所管を超えない範囲でやるのは可能ではないかということと、継続するかどうかについては、調査項目が絞れば9月までに終わるのかどうか、そこも含めて議論していただきたいと思う。

西山委員 : 私もそう思う。(1)の学校教育課の調査ということで、清水中学生の現状と清水高校

進学への課題というのはいいと思うけれども、(2)の学校現場の現状と課題で学校長とか教頭とか振興会だとか会長さんに聞くというのはいいけれども、高校の公開授業とか高校生の懇談会というのはおそらく無理だと思う。それからアイスホッケーの清水高校の振興策というのでもいいけれども、今はちょうど大会とか迫っていて忙しくてほとんど話は聞けない状態なので、この辺は無理だと思う。あと(3)の中学校調査と書いてあるけれども、中学生も人数少ないけれども、子どもたちは自分たちが行く学校というのをきちんと把握していて、進路などを決めていると思う。これを、学校長とか進学担当教師に話を聞く事は難しいと思う。

委員長：西山議員から、公開授業とか懇談会、アイスホッケー、そして中学生に聞くのは難しいのではないかという話があった。

佐藤委員：調査項目については1番2番3番4番全て必要だとは思いますが、所管を超えない範囲で調査をした方がいいと思う。

委員長：佐藤委員からは、項目についてはいいけれど、所管の範囲を超えないようにということである。

山本委員：経験がないので、経験がある方に合わせたいと思う。

委員長：山本委員からは皆さんの意見に従うということ。今皆さんからいろいろと出していただいたのだが、一つは所管の範囲を超えない中でやっていくということ。それから、振興会との懇談会もやってはいいのではないかという話。その他、高校の調査で言えば、公開授業だとか懇談会、アイスホッケーの人たちとの話は難しいのではないかということ、中学生は進路がある程度決まっているから難しいのではないかという話もあったけれども、中学校の調査については、学校から見た清水高校、結局地元の中学生在清水高校に残念ながら行ってないという課題。ではなぜ行ってないのか、地元にあるのに。その課題を探っていくのが必要ではないかということで、今回、載せさせてもらった。調べた中では進学の関係で総合学科というのはひとつのメリットになっているのか、全国的な傾向の中で総合学科の弱点という部分もあると思う。そういう部分を今後どう探っていくのかということも含めて、実際の話聞いてみるとどうかと思う。その辺皆さんの方から意見があれば出していただきたいと思う。

桜井委員：4項目全てやるのかどうかは別として、まず視察調査と、聞き取りを分けたほうがいいと思う。まず、視察をして優良事例を見て、そういったものを清水高校の振興策に生かさないかという議論をするのか、それとも最初に現状を見て、そのあと視察をして他の町村と比較をするとか、考え方は色々あるし、日程的にどうかということもあるので、そこは慎重に、ただ、あれもやりたいこれもやりたいという感じもするので、ある程度しっかりとポイントをおさえて、委員長が説明したところ、高校のことについてはどうしても道立高校の所管を超えているような微妙なところも感じるの、そこら辺も精査しながら所管としてできることをしっかりやればよいと思う。

委員長：視察と聞き取りの部分を分けて考えるということで、逆に言えば視察先を決めて視察してから、それをもとに聞き取りも必要であればそういうことを決めて行くという方法がいいのではないかと思ったが、そこら辺についてはどうか。

桜井委員：夏休みなので、その辺も含めて。

委員長：できる部分から進めていくとなると、聞き取りの部分、一番早いのは教育委員会から話を聞くというのが一番早い方法かなということと、ただ、8月中に振興会との懇談ができるかどうか、日程調整が必要になってくると思うけれども、その辺と並行して視察、夏休み中に可能なかどうかを含めて、検討していかなければならないと思うが、その

他どうか。

西山委員：私は他の高校に視察に行くのはしなくてもいいのではないかと思います。かえって、3番目の清水中学校に行って、進学の担当の先生からお話を聞くとか、そういうのをやれば、視察は。また、置かれている立場が違うと思う。鹿追町は完全に高校がなくなるということで、町あげてやっているわけだから、うちの学級数を減らされる、少なくなるなんていうことで、心配で人数をどうやって集めるかということが課題であって、全く置かれている立場が違うと思うので、その辺、視察はしなくても大丈夫じゃないかと思うけれども。

委員長：西山委員からは視察は特に必要ないのではないかという話も聞いた。確かに鹿追は中高一貫として町でやっているという部分もあるので、確かに違うかもしれないが、そこら辺をどうとらえるか、あまり言っていると今回の調査自体必要ないのではないかという話にもなってくるので、それがどうなのかなという部分。清水高校の現状は確かに、高校の配置計画で言えば令和8年に検討していくということなので、現状は三間口は維持されると、ただ、現状の中では二間口しか応募者がいないので、このまま進むのかなと思うけれども、それ以降、二間口が一間口になる可能性は、他の町の状況見たときに可能性としてはある。一間口になって、何年か継続した場合は配置計画の中で、高校の廃校が決まってしまう。これは今後2、3年、4、5年でどうなるかという問題ではないけれども、10年先を見たらそうゆうことが現実になりうるようになってくる。そうなった時に、逆に清水中学生で清水高校に行きたいという子ども、清水高校しか行けないという子どもももちろんいると思う。逆に間口が減ることによって競争率が上がって、逆にそういう子どもたちが清水高校に入れなくなるとかいう可能性も出てくると思われる。今後の予想としては、そういうことを今から避けるために、あらゆる調査をしながら今後どう進めていくかということの議会として提言しながらやっていくということが今回の調査の目的だと思う。それも考慮しながら皆に改めて検討していただきたい。視察が必要ないということであれば、視察をやめて、学校教育や中学校、高校の振興会を含めた中で進めていくという方法もあるので、更なる皆さんの意見をいただきたいと思う。

橋本委員：視察というのは何を見に行くかということがポイントになってくると思うので、現状を見た中で視察先は決めていかなければ、ただ、視察先ありきということにはならないと思う。視察は必要なものであると思うけれども、まずは学校教育課と高校振興会とコミュニケーションする中で、何が課題になっているのかということを全員で共有すると、おそらく、局長は前職で、高校も何回も行かれているからある程度つかんでいると思うし、そういう面では私たちよりもずっと前に考えながらやっているの、色々なことについて見識が得られるのではないかと思う。まずは調査から始めたらよいのではないかと思う。

委員長：橋本委員から、視察の前に学校教育と高校振興会との懇談をしながら、課題を見つけていくということであるけれども、その他皆さんから何かあるか。

桜井議員：橋本委員の言うとおりでいいと思う。

委員長：それでは桜井委員からも同じように、まずは学校教育の部分と振興会との懇談をしながら、調査をしながら課題をあぶりだして、以後、取り組みについて決めていったらいいのではないかということであったので、そのような方法で総体的に進めていってよろしいか。

(「はい」との声あり)

委員長：それでは、まず学校教育との調査を、今月はなかなか難しいと思うので8月に入ってか

ら、アポイントとってもらってやっていくということと、合わせて、振興会と調整して
いただいて、進めていくような形で進めていくような形でよろしいか。

(「はい」との声あり)

事務局長：冒頭でもあったように、9月に一旦報告して閉めるというよりも、ここは継続という
形をとるといふのかを決めていただきたい。

委員長：もし、教育委員会及び振興会が8月中にできるのであれば、9月報告という形でも終わ
るのかと、その時点で継続かどうかも含めて、まずは9月報告ということで進めていく
ということ。

桜井委員：所管事務調査終わった段階でまとめに入るけれども、その段階で9月定例会に報告す
るのか、それとも、もう少し継続して調査をするのかという申し出も含めて判断したら
いいと思う。

委員長：桜井委員から、調査終わった後、二項目まとめの段階で継続が必要であれば、その時継
続すればいいのではないかということで、その時に判断するというでいいのではない
かということなので、そのような方法でよろしいか。

(「はい」との声あり)

事務局：日程調整であるが、具体的にまとめをする期間を含めると、8月の21日の週にやらない
と厳しいと思う。

委員長：8月は立て込んでいて、お盆もあるので、お盆明けのスケジュールを見ながら事務局と
調整しながら進めさせていただくということよろしいか。

(「はい」との声あり)

(2) その他

(「はい」との声あり)

委員長：それでは、そのような形で進めていきたいと思う。次回については皆さんにメールでお
知らせするような形になるのでよろしく願います。その他、皆さんの方から特に何か
あれば出していただきたいと思うがないか。

(「なし」との声あり)

委員長：それでは、これで厚生文教常任委員会を終了する。

【閉会 11:45】